

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2012.9.1

No.97

「聖書は信頼できるか」の続きです。前回は「科学的正確性」を見ました。聖書は世界で最も古い本でありながら、現代の科学に照らし合わせてみても矛盾しない表記で満ちています。

2、医学的正確性

古代文献に書かれた医学的なアドバイスや情報は恐ろしいまでの言い伝えや馬鹿げた治療法で満ちています。しかし、聖書はそうではありません。聖書医学的な事柄を述べている時、そこに間違いはないのです。旧約聖書における神の律法の多くは、神の民の健康を守るために与えられました。その規定の背後にある医学的根拠を彼らが知っている、知らないにかかわらず与えられたのです。

今日の医学的な知識をもってこれらの規定を考えてみると、「聖いものと不浄のもの」に関する規定は、伝染病を回避し、健康を保つためにも重要なものであることがわかりました。一つの驚くべき事例は以下のものです。

「：八日目には、その子の包皮の肉に割礼をしなければならぬ。：」（レビ記十二章三節、今から三千年五百年前に記された箇所）

ここでユダヤ人の男の赤ちゃんは生後八日目に割礼を受けるように命じられています。これ

part III

聖書は信頼できるか？



は男性の生殖器の包皮を切り取るというものです。血液を凝固させるのに必要なビタミンKは、生後八日後の赤ちゃんの体内でビロクに達するということを私たちが今になって知ったのです。その後再び減少します。すなわち、赤ちゃんにそのような出血を伴う手術をするのは八日目かベストなのです。また男性への割礼によって、後の配偶者の子宮がんの割合が減ることもわかっています。現在でもアメリカ人の六割は割礼を受けているそうです。これは旧約の律法と関係なく、健康上の理由でそうしているのです。

このような例は聖書にあふれています。パウロはテモテに対して言いました。

「これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のぶどう酒を用いなさい。」
(第一テモテ五章二十三節)

これは単なる昔からの「言い伝え」ではありません。医学的な研究によると、食事と共に少量のワインを取るならば、食物や水によってもたらされる内臓の病気を克服するのに役立ち、心臓発作を防ぐ役割もするということがわかってきたのです。

こんな変わった例もあります。

「陣営の外に一つの場所を設け、そこへ出て行って用をたすようにしなければならぬ。武

器とともに小さくわを持ち、外でかがむときは、それで穴を掘り、用をたしてから、排泄物をおおわなければならない。」
(申命記二十三章十二、十三節)

今から三千年五百年前に書かれたイスラエルの兵士の心得です。何とトイレに関する規定です。第一次世界大戦まで、戦場で直接亡くなる人数よりも戦闘の際に負ったけがによって起こった病気で亡くなる人の方が十倍も多かったのです。それは衛生観念が乏しく、特に排泄物の処理をいい加減にしていたからです。

病気の予防や感染防止についても申命記には詳細に指示があります。病気の原因が目に見えないウイルスであることを知る由もなかった時代なのでどうしてそういう対策を取るかわからなかったのですが、対策自体は完璧です。一六〇〇年代にベニスのクリスチャンがこの聖書の指示に忠実に従った時、疫病の蔓延が劇的に収まったという事実もあります。

この申命記を記したモーセは、当時最大の帝国であったエジプトの一級の学問を受けてきました。ところがそのエジプトでは、傷口にらくだの糞をぬるとよい、と信じられていたという程度のレベルだったのです。では、どうしてモーセはこんなことをアドバイスすることができたのでしょうか。聖書は、人間の考え、発想で書かれたのではなく、創造主によって指示を受けて書かれたのだと主張しています。これらのことはその一つの証拠にはならないでしょうか。

今年も集会のバイブルキャンプがあり、三泊四日と和歌山県に行ってきました。このキャンプの目玉は海水浴なので、思いっきり海を満喫しました。残念ながら他の日は天候が悪く入ることが出来ませんでした。代わりに今回のキャンプで聖書のメッセージをしてくれる栗本兄弟のお勧めの「神様からの手紙」というDVDを鑑賞しました。

「神様からの手紙」という洋画は、ガンで苦しみながらも希望を失わず、神様に手紙を書き続けた八歳の男の子のお話です。彼の手紙を毎日受け取る郵便局員は最悪な状況に置かれていましたが、彼の手紙を読み、立ち直りました。他にも男の子を取り巻く様々な人が彼の手紙によって励まされ、勇気づけられていくという実話を元にした映画です。涙なしでは見ることができませんでした。

スタッフから参加者への歓迎の意を込めて行われる毎年恒例の「スペシャルナイト」では劇をしました。率直に福音を伝えることができ、参加者にも好評でした。十月に行われるクリスチャンのためのキャンプでも再度、劇をして欲しいと依頼され、本当に楽しんでもらえたみたいで嬉しかったです。

栗本兄はメッセージの準備で忙しいにもかかわらず、参加者全員と仲良くなるうとすべてのプログラムに参加していました。参加者全員の名前を覚えて、一人一人に声をかけてくれことが印象に残りました。

三泊四日はあつという間でしたが、充実した日を過ごすことができました。

こんなことしました！ 行事報告

八月

- 三日 日曜学校キャンプ
- 七〜十三日 APAC大会(台湾)
- 八〜十一日 チア仙台キャンプ
- 十二〜十五日 BCバイブルキャンプ
(和歌山白崎青少年の家)
- 二十三日 音楽教室
- 二十六日 京都・西京極集会訪問
- 二十七日 A家訪問(兵庫県明石市)
- 二十八日 北坂養鶏場見学(淡路島)

ホームスクールサマーキャンプ

R

三度目の参加になる、ホームスクールのキャンプに行ってきました。宮城県の仙台で行われました。今回は兄たちや姉たちは参加できなかったのですが、母と二人で参加しました。

大阪から、仙台まで約十二時間かかりました。二人の運転手の方が来てくださって、交替で運転してくださいました。途中渋滞もあり、大変だったと思いますが、私たちのために、一生懸命、十二時間も運転してくださいました。

一日目は、Tシャツ染め、ウォーターファイトと、スイカ割、乗馬をしました。どれもすごく楽しかったですが、普段あまりできない乗馬が一番楽しかったです。前回のキャンプではポニーしか乗れませんでした。今回は大きな白馬に乗って歩くことができました。乗ってみる

とすぐ背が高かったです。スタッフの人たちは馬に慣れているので走っていてびっくりしました。

二日目は、滝つぼで泳いだり、舟くだりをしたりしました。滝つぼの川の水は氷水のように冷たくて、慣れるのに時間がかかりました。滝つぼは少し歩いただけで、もう深くなっていて、一番深い所では、三メートルくらいありました。三メートルもあるので、崖から飛び込んでいた人がいました。初めは絶対飛び込まないと思っていきましたが、みんな飛び込んでいるのを見て「せっかく来たから飛び込みました。飛び込みは初めてですごくいい体験でした。

二日目の夜はバーベキューを用意してくださいまして、「ハンバーガー」二個と「ホットドック」一個食べました。ホットドックのソーセージは各自で焼いて、自分たちで作りました。

友だちもでき、関東などの遠くてあまり会えない友だちにも会えて本当に嬉しかったです。

来年はリーター(リーダーズイントレーニング)と言ってワーカーとして参加したいと思っています。思い出に残るキャンプでした。

編集後記

Kは聖書の学びの大会のために台湾にいつてきました。アジアを中心とした十数カ国からの五百人ほどのクリスチャンが台中の会場に集まりました。↓

